

デジタル未来戦略の基本方針

ミライマバリDXプラン 概要版

—今治市デジタル未来戦略—



今治市のデジタル未来戦略のキャッチフレーズは『ミライマバリ』です。

これはミライ mirai+imabariイマバリの造語です。

DXは目的ではなくあくまで手段であり、考えるべきは今治の未来です。

その未来に向けて考えていく姿勢を、シンプルに分かりやすい言葉で表現しました。

「i=市民」を「今治」の「未来」を描く際の真ん中に据えて、取組み姿勢とアクションを体现していきます。

市役所内の部署間で連携することはもとより、市の事業者様、市民の皆さんと連携することで、

日本のどこにもない、あたたかみのあるDXを今治市で実現していきます。

【コンセプト】

人に寄り添う日本一アナログなDX

【実行方針】

「市民が真ん中」になる活動、
時間を生み出す「しない」DX

【実行成果】

誰もが住み続けたい「心地好さ」「便利」

間接指標＝シビックプライドを示す居住・居住推奨意向の向上

方針に沿って基本理念を実現するために、以下の3つを進めていきます。

コンソーシアムの形成

- 新しく参画したい企業、組織と共に「仲間づくり」できる活動
- 新しい今治市を考えためのコミュニティをデザイン

アジャイル型

- 計画を立ててその通りに履行していくのではなく、勉強会・プロトタイプを重ねながら改良していく



活動過程の広報
(プロセスプランディング)

- 経過を見せることで、仲間づくりのスピードを速める



「市民が真ん中」の視点で市民や企業が 主役となる暮らしをつくります。 やめるべきことをやめ、 やるべきことを高度化します。

健診や予防接種などの子どもに関するデータを関係機関が連携して活用し、妊娠、出産、就学まで切れ目ない情報や支援を進めます。また時間や場所にとらわれない相談体制を整備し、安心して子どもを育てられる環境を整えます。そして、誰もがデジタルの恩恵を受けられるよう、環境の整備を進めるだけでなく、デジタルが苦手な方へのサポートを行います。またデジタルの普及それ自体を、高齢者と若者や移住者など、属性を超えた交流を生み出すきっかけにしていきます。加えて健診データや医療データに基づいて、AIが適切な食事、運動、睡眠を提案し、日常生活における生活習慣病予防や健康づくりを促します。また、介護や福祉の現場でもIoTによる見守りや人感センサーなどの導入を通じ、介護者の負担が軽減されるようにします。



ミライマバリアクション

\施策 /

① 子どもを守り育むICTネウボラによる切れ目ない支援(③子育てのDX)

- LINEチャットなどを活用し、オンラインで24時間子育ての相談を可能に

- AIを活用し、子どもひとりひとりに合わせた細やかな発達支援

- 子育てアプリを活用し、健診や予防接種などの情報を成長にあわせプッシュ型で通知!

\施策 /

② 誰一人取り残さないデジタル社会の実現(⑨デジタルデバイド対策)

- SNSを活用した、ICTに親しむイベントの開催

- 公衆Wi-Fiの拠点整備、高速インターネット回線の敷設推進中!

- 公民館でスマホ教室開催中! 郵便局などにスマホ相談窓口を開設中!



\施策 /

③ デジタルが支える健康といつまでも自分らしい暮らし(②健康・医療・介護のDX)

- 健康アプリや健康ポイントを活用して、個人の健康づくりを推進

- 健診データ・医療データ連携による市民の健康促進

- e-スポーツを通じて、誰もが自分らしく活躍できる共生社会を実現

- デジタル技術で要介護を見守る「スマート福祉」を導入し介護現場の負担を軽減!

ミライマバリアクションは
次のアイコンで実装レベルを
表現しています

構想段階：アイデアや夢。「こんなことができるといいな」「こんなこともできるかも」

検討中・研究中：まだ具体的な段階ではないが、検討したり情報収集しているもの。
あるいは、他自治体で事例があるものなど。

試験導入・実証実験中：試験的に導入してみたり、実装が可能か実証実験で試しているもの。

実施中・展開中：既に市や関連機関で実施しているもの。今後の展開、拡充が見込まれるもの。

市役所から先端的なDX行政を取り入れ、この発想があったかというみんなに見せたいDXまちづくりのミュージアムを目指します。

島しょ部と陸地部にまたがる広い市域は、今治の暮らしを考える上で大きな課題です。デジタルを活用し距離の不便を感じない、実質「ゼロ距離」生活を目指します。

また、リモートワークやワーケーションなど、新しいスタイルで働きたい「転職なき移住者」や「多拠点居住者」にとって魅力的な環境であることをアピールして、移住者を多様な形で迎え入れます。



ミライマバリアクション

\施策 /

1 しまなみ海道「ゼロ距離」生活の実現(④空間距離のDX)

- 陸地部と島しょ部をライブでつなぐことで、コミュニケーション促進や健康づくりに活用
- 自動運転やドローンを移動や配送に使って、生活をもっと便利に
- 市役所の支所と本庁をオンラインで接続し、身近な窓口で複雑な手続きや相談が可能に！

\施策 /

2 心地よく「住む」リモートで「働く」日常がワーケーションな移住先進地に(⑦移住のDX)

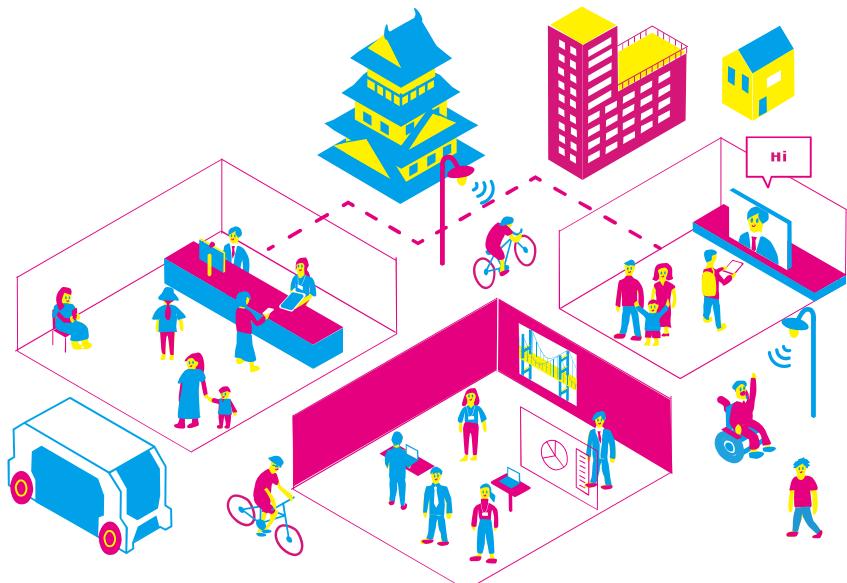
- オンライン移住ツアーやバーチャル移住体験。方言の魅力なども盛り込む
- 独自ポイントや地域通貨の導入も検討
- ワーケーションのモデルツアーを実施し、ガイドブックを作成！
- オンライン移住相談会、随時開催中！
「いまばり暮らし」ホームページで移住情報を発信中！

ミライマバリアクションは
次のアイコンで実装レベルを
表現しています

- 構想段階：アイデアや夢。「こんなことできるといいな」「こんなこともできるかも」
- 検討中・研究中：まだ具体的な段階ではないが、検討したり情報収集しているもの。
あるいは、他自治体で事例があるものなど。
- 試験導入・実証実験中：試験的に導入してみたり、実装が可能か実証実験で試しているもの。
- 実施中・展開中：既に市や関連機関で実施しているもの。今後の展開、拡充が見込まれるもの。

**デジタル・アナログにこだわるのでなく、
住民対応のクオリティを高め、
人と人とのつながりをより大切にするための
手段としてDXを活用します。**

24時間いつでも、どこからでも手続きできるオンライン市役所や、
一つの窓口で手続きが完結するワンストップ化を目指します。
そのために、まずは行政事務の整流化を行います。
このため業務プロセス自体の見直しからはじめ、
どうしてもなくせない事務処理の自動化、省力化を行います。
デジタル化そのものを目的とするのではなく、時間のかかる義務的な
仕事を減らすことで、窓口対応など人にかかる業務に注力し、
あたたかみのある市役所を目指します。



ミライマバリアクション

\施策 /

- ① 時間や場所にとらわれずワンストップで
サービスが受けられる手のひら市役所(①住民サービスのDX)

行政手続きの順次オンライン化、ペーパーレス化

AIチャットボットによる24時間問い合わせ対応

市民課にて「おくやみコーナー」「書かない窓口」「待たない窓口」実施中!

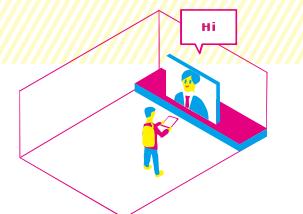
\施策 /

- ② 業務のデジタル化による生産性向上とスマートな行政運営(③業務改革のDX)

BPRにより業務を改善、職員によりよいサービスのための余裕をつくりだす

オンライン申請により住民の利便性を高め、かつ、ペーパーレス化を促進

RPAによる業務の自動化、順次導入中!



ミライマバリアクションは
次のアイコンで実装レベルを
表現しています

構想段階：アイデアや夢。「こんなことできるといいな」「こんなこともできるかも」

検討中・研究中：まだ具体的な段階ではないが、検討したり情報収集しているもの。
あるいは、他自治体で事例があるものなど。

試験導入・実証実験中：試験的に導入してみたり、実装が可能か実証実験で試しているもの。

実施中・展開中：既に市や関連機関で実施しているもの。今後の展開、拡充が見込まれるもの。